

第9回新潟県データサイエンス人材育成協議会議事概要

日 時： 令和7年12月21日（日）13:30～14:30
場 所： 新潟大学附属図書館（中央図書館）1階 会議室
開催形式： 対面およびオンライン（Zoom）併用
出席者： 別紙のとおり

1. 報告事項

（1）第8回協議会議事概要

齋藤委員より、第8回新潟県データサイエンス人材育成協議会議事概要について報告があった。

（2）MDASH（リテラシーレベル）再認定申請手続き

齋藤委員より、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（MDASH）」リテラシーレベルの再認定申請について、今年度の新潟大学の申請事例に基づき説明があった。

再認定申請は新規申請と比較して提出書類が簡素化されているものの、各大学においては次回更新を見据え、教育内容や体制の整理・点検を計画的に進める必要があることが確認された。

2. 協議事項

（1）データサイエンス授業資料について

齋藤委員より、今年度初めに授業資料を提出した大学・企業に対し、次年度以降も継続して当該資料を使用可能か確認を行うこと、あわせて、資料の更新や追加について、メール等による声掛けを行い、取りまとめのうえ展開する方針について説明があった。

協議の結果、引き続き、協議会構成機関の協力のもと、授業資料の有効活用および内容の充実を図っていく方針が確認された。

（2）大学におけるデータサイエンス教育プログラムの必修化調査の実施について

齋藤委員より、文系学部を含める各学部のデータサイエンス教育の必修化状況および今後の計画を把握するため、県内の高等教育機関を対象とした調査を協議会名で実施する方針について説明があった。

協議の結果、本調査の実施について承認された。

（3）生成AIの利活用状況について

各機関より、生成AIの教育および業務における活用状況について報告があった。

大学においては、全学的に利用環境を整備している事例から、教員の判断により限定的に活用している事例まで、方針や活用段階に違いがあることが共有された。

また企業からは、生成AI活用においてはプロンプト操作に留まらず、データ構造の理解、セキュリティや著作権への配慮、AIの出力結果を評価・判断できる能力が重要であり、そうした力を備えた人材育成への期待が示された。

全体として、生成AIの普及を踏まえ、知識習得型教育から、思考力・判断力・課題解決力を重視する教育への転換が重要であるとの認識が共有された。

3.その他

新潟大学ビッグデータアクティベーション研究センターより、社会人リカレントや生成AIの要素も取り入れたeラーニング教材の開発について、再検討を進めている旨の報告があった。詳細については、後日改めて共有される予定である。

4.まとめ

本協議会を通じ、数理・データサイエンス・AI教育の重要性や、产学研が連携して人材育成を進める必要性について、改めて共通認識が得られた。

今後も本協議会を継続的に開催し、新潟県におけるデータサイエンス人材育成の取組を関係機関が連携して推進していくことを確認した。

別紙

第9回新潟県データサイエンス人材育成協議会出席者

出席者（順不同）

坂本 信	新潟大学
齋藤 裕	新潟大学
山田 修司	新潟大学
五島 讓司	新潟大学
鈴木 源吾	開志専門職大学
吉田 貴裕	開志専門職大学
坂井 一貴	長岡大学
中村 誠	新潟工科大学
木村 和樹	新潟リハビリテーション大学
吉倉 卓也	新潟県庁
坂田 源彦	株式会社 BSN アイネット
本間 康栄	東京アプリケーションシステム株式会社
栗原 由枝	新潟大学（研究企画推進部研究推進課）